



加 監 発 第 2 0 号
平成 2 9 年 6 月 2 1 日

加 須 市 長 大 橋 良 一 様
加 須 市 議 会 議 長 福 島 正 夫 様
加 須 市 教 育 委 員 会 教 育 長 渡 邊 義 昭 様

加 須 市 監 査 委 員 秋 本 政 信

加 須 市 監 査 委 員 平 井 喜 一 朗

平成 2 9 年 度 定 期 監 査 の 結 果 (学 校 監 査) に つ い て (報 告)

地方自治法第 1 9 9 条第 4 項の規定に基づく定期監査を執行したので、同条第 9 項の規定により、その結果を次のとおり報告します。

平成29年度定期監査結果(学校)

I 監査の対象

(小学校6校)

加須小学校、三俣小学校、田ヶ谷小学校
北川辺東小学校、原道小学校、元和小学校

(中学校2校)

昭和中学校、北川辺中学校

II 監査の期間

平成29年5月9日～平成29年6月16日

※監査委員事務局による事前監査 平成29年2月1日～平成29年2月6日

III 監査の範囲及び基準日

平成28年4月1日から平成29年4月30日までに執行された平成28年度及び平成29年度の財務に関する事務の執行状況並びに平成29年度の学校経営の状況

IV 監査の方法

学校の現状や財務状況を検証することを主たる目的とし、財務に関する事務の執行及び学校経営に係る事業の管理について、関係法令等を遵守し適正かつ効率的に行われ、さらに学校教育目標に向かって合理的に運営されているかについて監査を実施した。

実施に当たっては、必要な資料及び関係書類の提出を求め、事前に監査委員事務局により、財務関係書類、備品類等の実地確認を行った後、監査委員が各学校を訪問し、関係職員からの説明を聴取して行った。

V 監査の結果

財務関係事務が関係法令等を遵守して執行されているか否かを主眼として予算執行状況、監査調書等を基に照合を行った。併せて学校経営に係る事業の管理について、学校教育目標に対する効果や経営の効率性に着眼し監査を行った。

その結果、予算の執行状況、学校経営状況等については、適正かつ効率的に執行されていることを確認した。

なお、本監査における学校の状況及び主な意見は次のとおりである。

1 総括的事項

財務に関する事務の執行については、予算の執行状況と手続の合規性、学級費や旅行積立費等の教室集金会計の取扱いと内部監査体制、給食費の収納状況と滞納対策、備品の管理状況等を監査し、適正に執行されていることを確認した。

学校経営に係る事業の管理については、各学校とも、加須市人づくり宣言をはじめ加須市人づくりプラン等を念頭に、学校規模、校風や児童・生徒、地域の実情等を把握された上で目指すべき学校像を定め、それらの実現に向けて各種取組事項を掲げた学校ブランドデザインを明確に定めていた。

その運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、教職員間の情報の共有化が図られており、また、保護者や学校評議員をはじめ連携している地域の方々に対しても、共通理解を図りながら行われている。

さらに、取組みの実施に当たっては、一部の学校では学校関係者の評価を得ながらP（計画）・D（実行）・C（評価）・A（改善）サイクルを構築し、実効性のあるものとして運営されていた。

なお、全体の学校運営状況及び個別的事項は、次のとおりである。

2 学校運営状況について

（1）組織について

校長・教頭を中心とした教職員の役割分担が明確に定められ、それに基づいた業務が行われており、責任体制も確立されている。

また、日ごろから教職員間の情報の共有化が図られるなど組織体制の強化に取り組まれている。

教職員の時間外勤務については、大規模校や中学校で多く見られた。児童・生徒への指導などの本来業務が優先して行えるよう、事務の効率化、家庭との連絡方法、学校行事の見直し、地域人材との協働等を研究され、組織一体となって時間外勤務の縮減に取り組まれない。

また、教職員の指導力向上については、ベテランの教職員が多く退職するとともに、クラス数の減少に伴い相談できる同学年を担当する教員が減少している中、若手教職員の育成、勤務年数のバラつきなどへの対応として、教員研修及び学習指導研究などへの参加並びに学校独自に教職員の自主研究発表会等の開催、校長による授業巡視と指導など、教職員の指導力の向上に努められている。

（2）学力向上対策について

各学校において、「ひとり学びノート」の活用や授業前の基礎学力習得時間の設定など様々な取組が行われており、基礎学力の定着及び家庭学習の習慣化について、成果を上げている。また、今後の課題も的確に把握しており、少人数指導やチームティーチングなどきめ細やかな指導に取り組まれている。

なお、新たな学習指導要領に則った教育活動も行われている。

引き続き、一人一人の学力の向上に努めるとともに、「分かる授業」「楽しい授業」を実践され、児童・生徒の自ら考え自ら学ぶ力の育成に尽力されたい。

(3) いじめ・不登校について

いじめについては、いずれの学校においても、児童・生徒及び家庭への定期的なアンケート、相談体制の整備、予防対策の実施等をしており、監査日現在において、いじめの認知はなかった。また、監査日前にいじめが認知されていた学校においても、発生時の迅速な対応等により、早期発見や早期解決が図られていた。なお、児童・生徒へのスマートフォンやSNSの普及により、目に見えない形でのいじめが進行しているおそれがあるので、細心の注意を払われたい。

引き続き、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、家庭や関係機関等と連携し各学校の実情に応じた実効性ある取組を展開されたい。

また、不登校については、一部の学校で報告があったが、積極的な家庭訪問やスクールカウンセラー、適応指導教室「学習室ピア」等と連携して対応されている。

(4) 学校給食費等について

学校給食費については、原則、保護者の金融機関の口座から引落しが行われており、学級費や積立金については、現金集金が多い。その取扱いや保管については、管理職によるチェック体制の下、執行されている。引き続き、教職員が事務処理を行った後の速やかな管理職によるチェックの徹底に努められたい。

なお、一部の学校では、学級費や積立金について、現金出納簿、預金通帳、領収書の突き合せに時間を要した。

第三者が見て、突合しやすく、見やすい会計帳簿作りに取り組まれたい。

学校給食費の未納については、多くの学校で完納されており、わずかに未納がある学校においても、対応マニュアルに基づき、適切な取扱いが行われており、成果が上がっている。

(5) 図書について

児童・生徒が、考える習慣を身に付けられるように、朝の読書タイムやお勧めの本の紹介など、読書に関心を持つような創意工夫ある取組が行われている。

また、「加須市子ども読書活動推進計画」に基づき、学校図書館の充実と利用促進を図る取組も行われている。

(6) 施設管理について

学校施設（遊具や運動用具等も含む。）の安全管理については、安全点検表により定期的な点検が行われているとともに、危険箇所や破損等が発見された場合には、速やかに使用の中止、修繕等が行われている。

なお、一部の学校においては、校舎の雨漏りやトイレの水漏れなど修繕が必要な箇所が見受けられたので、関係機関と協議をして適切な施設の維持管理に努められたい。

また、故障や不具合による改修等の発生を未然に防止するため、日々適切な施設管理、早期修繕に努め、施設の長寿命化を図られたい。

机・ロッカーをはじめとした管理用備品や教材用備品等については、台帳への正確な記載や定期的なたな卸点検を実施するなど、適正な管理が図られている。

理科室の薬品の管理については、保管庫の施錠が適正に行われ、薬品類は管理使用簿により管理されていた。

また、水道水の使用管理については、プール期間中は、毎日、水道メーターの確認が行われ、校舎内の水道メーターも週1回確認されていて適正に管理されていた。

(7) 地域との連携について（学校評議員、ふれあい推進長、学校応援団）

学校評議員制度は、自治会をはじめとする地域の関係団体等の代表者で組織されており、年3回程度会議が開催されている。

その会議では、学校の経営状況や地域との交流状況などの説明、時には運動会や授業等の参観なども行われている。

これらを通じて、評議員から寄せられた様々な意見や要望が、学校経営に生かされている。

また、保護者・地域住民がボランティアとして組織する「学校応援団」は、学習活動、安全確保、環境整備など様々な場面で学校との連携が図られている。

今後、学校応援団等の高齢化に伴う人材不足が懸念されるため、新たな人材の発掘等尽力されたい。

(8) 登下校時の安全対策について

登下校時における児童・生徒の安全対策については、通学路の安全確認のほか、集団による登下校、PTAや学校応援団をはじめとする地域の方々による交差点での立哨や登下校時の付添いなどの見守りが行われ、通学時の安全確保が図られている。

なお、見守りの目が届きにくくなる通学路最末端の児童・生徒の見守りについても配慮されたい。

また、登下校以外でも、交通事故等を防止するため、子ども自転車運転免許の講習会や交通安全講習会を開催するなど、児童・生徒の交通安全対策に取り組まれている。

(9) 防災対策について

災害別の危機管理マニュアルを整備し、様々な災害を想定した避難訓練を実施されている。地域の特性にあった避難訓練や防災学習など、学校独自の工夫ある災害対策が行われている。今後も、災害時に児童・生徒の命を守るため、訓練等の内容が形骸化しないよう、工夫ある取組を実践されたい。

3 各学校の個別的事項について

加須小学校 児童数 497 人（学級数 17 学級+特別支援学級数 2 学級）

- (1) 「自分を生かして みんなのために」の学校教育目標に基づき、児童がどう変わったかに重点を置き、児童が変わったことを実感できる教育に取り組まれている。
- (2) 「学校がとる 3 つの基本姿勢+ α 」の+ α 「時を守り、場を清める」は小中連携、児童の引渡訓練は幼小一緒に行うなど縦の連携を実施している。
- (3) 学力については、学力向上委員会を設置し、現状の分析、課題の把握に努め、また、各学年における課題を共有し改善に取り組まれている。
- (4) 学校評価については、保護者や地域住民へのアンケート及び自己評価の結果を数値化し、PDCA マネジメントサイクルを取り入れた学校独自の評価システムにより評価を行っている。数値化することにより、取組の成果や現状における課題が明確となり、適切な目標の設定及び十分な説明がなされていることから、教職員の意識の向上並びに保護者及び地域住民の理解や協力を得ることにつながっている。引き続き学校評価システムの運用に努めるとともに、他の学校と積極的に情報交換を行い、PDCA マネジメントサイクルを取り入れた学校評価システムの普及に努められたい。
- (5) 学校ファーム、ホテル観賞会、登下校時の立哨活動、学習活動、学校行事等で地域住民からなるふれあい推進長や学校応援団と協力し、地域密着の教育活動を推進している。今後、学校応援団等の高齢化が懸念されるため、新たな人材の発掘及び継承に努められたい。

三俣小学校 児童数 611 人（学級数 18 学級+特別支援学級数 3 学級）

- (1) 学校経営のグランドデザインに、3 S「スピード、スマイル、スピリット」の合言葉を加え、楽しさを忘れない学校づくりを目指している。また、大規模校であることもあり、児童・教職員ともに組織として一体感のある学校運営に前向きに取り組まれている。
- (2) 学力向上面の新たな取組として、相手の考えを取り入れながら、自分の意見を積極的に発言できる児童を育てるため、ホワイトボードを活用した話し合い活動を授業に取り入れるなど、主体的な学びと対話的学びの推進に取り組まれている。
- (3) 体験教室での指導や登下校時の安全確保、学校内の環境整備等について、学校応援団と積極的に連携し活動している。体験教室では、米作りや昔の道具体験、昔遊び等児童にとって貴重な体験であり、また、学校応援団等地域の人のふれ合いの中で児童の心の成長が図られており、今後も地域とのより一層の協力体制を築かれたい。
- (4) 大規模校であるため、教職員の人数も多く、教職員間の意思統一やコミュニケーションに時間がかかることもあり、勤務時間が長時間化する傾向にある。教職員の業務を的確に把握し、事務の効率化、学校行事の見直しなども検討し、時間外勤務の改善に努められたい。

田ヶ谷小学校 児童数 207 人（学級数 7 学級+特別支援学級数 1 学級）

- (1) 「くすの木（地域密着）」、「すもう（心身鍛錬）」、「群読（学力向上）」の3つの特色あるシンボルを掲げ、児童の個性に重きを置き、自分の良さを自覚できる児童の育成を今年度の最重点課題と位置付け「児童一人一人を伸ばす教育の推進」に取り組まれている。今後も、児童の個性を伸ばし、自分の良さに自信を持てる児童の育成に尽力されたい。
- (2) 体力の向上と健康の増進の取組の中で、平成28年度は虫歯治療率100%を達成しており、今後も引き続き家庭と連携し、虫歯予防を含め虫歯治療率100%を維持できるよう尽力されたい。
- (3) 学力について、週2日の学力向上タイムや、算数科における「教室内少人数指導」を実施し、基礎学力の向上や児童の勉強に対する心構えの改善に取り組んでいる。今後は、全国学力テスト等での課題である記述式の問題に対応できるよう、思考力、判断力、表現力の向上に取り組まされたい。
- (4) 読書月間の実施や各学年年間目標冊数を設定するなど、読書の推進に取り組まれているが、図書室とパソコンルームが同室であり施錠されているため、児童が図書室を自由に利用できていない。今後、図書室とパソコンルームの分離について検討し、より一層の読書の推進に取り組まされたい。
- (5) 施設全体が老朽化しているため、計画的な修繕や適切な施設管理に努められたい。また、雨漏りやトイレの排水等特に注意して管理されたい。
- (6) 地域住民が行う「生活安全見守り隊」やスクールガードリーダー等による見守りが実施され、安全な登下校環境に取り組まれている。今後も、地域と連携し安全な登下校環境の確保について尽力されたい。
- (7) 危機管理マニュアルを整備し、年4回の避難訓練を実施するなど、災害対策に取り組まれている。今後も、様々な災害を想定した災害対策に取り組まされたい。

北川辺東小学校 児童数 211 人（学級数 8 学級+特別支援学級数 1 学級）

- (1) 学校教育目標を学校名が入った「ひ 人につくす子、が がんばる子、し 真剣に学ぶ子」とし、また目指す教師像も学校名を入れた「ひ 一人一人を大切にす教師、が がんばりを認める教師、し 信頼される教師」としており、児童と教師が同じ学校名の「ひがし」をキーワードに一体となって全力で教育活動に取り組まれている。
- (2) 特に、人につくす子を目指す取組に力を注いでおり、全学年混合の縦割り班活動を実施し、思いやりがあり豊かな心の醸成に尽力されている。
- (3) 「地域の環境を知り、自然を愛する児童の育成」を経営方針に掲げ、オニバス観察や渡良瀬遊水地自然学習など地域資源を学習に取り入れている。更には、地域の学校応援団と協力し、年間を通した学校農園活動や、近隣の川の歴史を学びながら防災学習をするなど、地域の特性を生かした教育を実践されている。今後も引き続き地域の特性を生かした学習に取り組まされたい。

- (4) 図書の貸出しについては、読み聞かせボランティアの活用や読書週間時の「読書まつり」実施などの取組を通じて、休み時間に図書の貸出しで列ができるなど読書が定着しており、年間貸出数目標の12,000冊を達成されている。
- (5) 災害に対して、各災害別に危機管理マニュアルを作成し、避難訓練や引渡訓練を実施している。特に、水害については、利根川・渡良瀬川など大河川に囲まれた立地にあることから、家庭、地域、行政機関と連携し早めの避難を心掛け、児童の安全確保に尽力されたい。
- (6) 学校施設の管理について、施設の長寿命化を図るため、適切な管理に努められたい。特に、屋上に生えている雑草等については、雨漏りの原因となり得るため、適時除去するなど適切に対応されたい。また、大雨時における窓枠からの雨水の浸入についても、今後施設に大きな影響が出る前に対応されたい。

原道小学校 児童数 138 人（学級数 6 学級+特別支援学級数 1 学級）

- (1) 下總皖一氏の出身校であり、歌声響く学校を特色に掲げ、4年生以上の希望者で合唱団を組織し、毎月音楽活動を行い、地域の行事等に参加し発表を行っている。今後も、下總皖一氏の出身校という特徴を生かし、音楽等を通じた独自の教育を大事にされたい。
- (2) 学校給食費は、口座引き落としであり、引き落としの前に保護者に対しメールで引き落とし日の連絡をするなど、新たな未納を作らない取組を実践されている。
- (3) 教職員の出退勤管理について、パソコンと各教職員のICカードによる独自の出退勤管理を実践している。パソコンによる出退勤管理を実践した結果、教職員の時間外勤務の改善に効果を上げている。今後も適切な出退勤の管理を行うとともに、教職員の時間外勤務の改善に向け取り組まれたい。
- (4) 体育館の雨漏りについては、館内の屋根裏に「簡易な雨受けと雨樋」を設けて一時的に対応されている。しかし、根本的な解決にはなっておらず、今後雨漏りの範囲が拡大されることも懸念されることから、恒久的な修繕対策を検討されたい。
- (5) 通学班は、近隣の児童で構成されているが、児童が少ない地域があり、高学年がない場合は低学年が班長となるなど、適正な通学班編成に課題がある。今後も、児童数の減少が見込まれ適正な通学班編成が困難になることが見込まれることから、より一層地域と連携し、登下校時の児童の安全確保に努められたい。
- (6) 小学校のホームページについて更新を頻繁に行い、積極的な情報発信に取り組まれている。家庭や地域の理解を得るためにも学校の情報発信は重要であり、今後も情報内容を工夫し、より相手に興味を持ってもらえる情報発信に尽力されたい。

元和小学校 児童数 145 人（学級数 6 学級+特別支援学級数 1 学級）

- (1) 地域の実態（三世代同居家庭が多く、郷土愛・愛校心が強い。）、児童の実態（明るく素直で何事にも真剣に取り込む。）、保護者の願いをよく把握された上で、一人一人

の子供を伸ばし、自信と豊かな心と夢を育む学校をグランドデザインに掲げ、若い教職員とともに、地域や PTA と一体となって教育を実践されている。

- (2) 児童の学習へのモチベーションを上げるため、家庭学習で使用したノートの冊数による表彰「こだま賞」や「ひとり学びコンテスト」を実践し、家庭学習の習慣化に取り組まれている。また、算数科における少人数指導を実施するなど、きめ細やかな指導を実施されている。引き続き、児童の主体的な学びと基礎学力定着に向け、きめ細やかな指導を実践されたい。
- (3) 現在、空き教室が 2 教室あるが、学区内の地域で区画整理事業が進んでおり、今後児童数の増加が見込まれるため、開発地内の動向を注視し、関係機関と情報共有を密にして児童数に応じた計画的な学校施設の利用に努められたい。
- (4) 学校敷地内での地盤沈下が著しく進行し、それに伴い学校施設や設備に支障が見受けられるので、関係機関と情報を共有し、適切な管理に努められたい。また、学校周辺の地形の関係で毎年大雨時、近隣の道路が水没することがあるため、大雨時の安全対策に万全を期されたい。

昭和中学校 生徒数 654 人（学級数 18 学級+特別支援学級数 3 学級）

- (1) 学校目標の 1 つである「真剣に働く生徒」や、校訓の「一所懸命」にあるとおり、生徒が夏祭り後のごみ清掃や、1 2 月に市の公共施設周辺の清掃活動を主体的に行うなど、生徒が地域の一員であることの自覚と、地域に貢献する態度の育成が図られている。今後もさらに、地域におけるボランティア活動を通じて、生徒の心の成長を図り、また地域との絆を深める取組に尽力されたい。
- (2) 各教科担当が家庭学習の具体的な取組について説明する「学力パワーアップ集会」や、家庭学習ノートの毎日提出、月 2 回の「学習の日」の設定など、家庭学習の習慣化を図る取組を行っている。また、少人数指導や習熟度別の指導など指導方法や学習形態を工夫しながら生徒個々の学力向上に取り組まれており、生徒の基礎的、基本的な知識技能の習得に成果を挙げられている。引き続き基礎学力の定着を維持しながら、課題である「自分の考えを説明したり論理的に表現する」といった思考力や表現力の向上に尽力されたい。
- (3) 欠席傾向にある生徒や保護者への積極的な家庭訪問の実施のほか、スクールカウンセラー等関係機関との連携が図られ、不登校生徒数は年々減少傾向にある。今後も個別柔軟で早期の対応を心掛け、不登校の解消に尽力されたい。
- (4) いじめについては、認知件数は少ないが、最近は SNS での悪口など教師が発見しづらい傾向があるため、引き続き、定期的なアンケートの実施、生徒と教師の密なコミュニケーション等を通じて早期発見、早期解決に努められたい。
- (5) 学校施設については、校舎間の移動では段差があり、バリアフリーに課題がある。また、今年度、大規模改修工事が実施されるため、現在把握されている問題個所の修繕に遺漏がないよう努められたい。なお、大規模改修工事により避難経路が変わるため、教職員、生徒、学校関係者への新たな避難経路の周知徹底に努められたい。

- (6) 蔵書数が21,001冊と多いが、生徒への貸出数が年間300冊程度（朝読書での貸出を除く。）であり、生徒の図書室の利用に課題がある。朝読書を通年で実施され、朝読書集中週間を4回実施されているが、今後とも、工夫ある取組に努められたい。
- (7) 教職員の時間外勤務の改善に向け、月2回の学習の日は部活動を行わず、会議等も設定せず、教職員の早期帰宅を促す取組を実践されている。今後も、教職員の意識改革も含め、部活動等で外部指導者等からさらに協力を得るなど早期帰宅につながる取組を実践されたい。
- (8) 年度途中で教職員、保護者、生徒からアンケート（4点満点・無記名）を実施し、PDCA マネジメントサイクルを取り入れ、改善点を把握するよう努めており、経年変化を見ながら適切な改善策を講じている。年々点数は上昇傾向と成果が出ており、今後もPDCA マネジメントサイクルを徹底し、課題改善に尽力されたい。

北川辺中学校 生徒数 234 人（学級数 7 学級+特別支援学級数 2 学級）

- (1) 学校経営のグランドデザインに「笑いと締めりのある学校！」をキャッチフレーズに掲げ、学校関係者全員にとって「元気な学校」を目指している。
- (2) 確かな学力の定着に向け、5教科（国社数理英）による朝テスト・KMC（北中モーニングチャレンジ）の実施や、英語科指導における少人数指導の実施、「一人学びノート」で保護者の記入欄を作り、家庭との連携等を図るなど、様々な工夫ある取組を実践されている。引き続き、確かな学力の定着に尽力されるとともに、今年度の重点である主体的・対話的な深い学びを通じた学力向上の推進を図られたい。
- (3) 北川辺地域内の2つの小学校と授業規律の統一化、話し合い活動の共通実施等系統性のある教育活動を実践されている。そのために、教職員の授業相互参観、各校長等による月1回の情報交換会等を実施し、小中一貫教育を推進されている。今後はその効果を検証し、さらに工夫され、他の地域へのモデルケースとなるよう努められたい。
- (4) 生徒数の減少に伴い活動休止を余儀なくされる部が出ているが、部員の少ない部は、他の中学校と合同チームを作るなど柔軟に対応されており、引き続き、多くの生徒が活動できるよう、柔軟な対応に取り組まされたい。
- (5) 校舎は1学年5クラスとして建築されているが、現在は1学年2～3クラスのため、空き教室が多くあり、ふれあいルームや少人数指導教室等で利用されている。
生徒数に対して広い校舎、校庭であるが、どこも清掃、除草が行き届いており、学びの場としての環境が整えられている。今後も、こうした取組を継続されたい。